

令和3年度（2021年度）健康くまもと21推進会議 議事録要旨

日時：令和4年（2022年）2月1日（火）

場所：新型コロナウイルス感染拡大防止のため、書面により開催

出席：34名（五十音順・敬称略）

一安 勝、井手州子、大森久光、岡崎淳司、織田智行、甲斐征男、工藤壽子
小山登代子、佐藤成美、澤村裕美子、下雅意 清、高岡辰生、谷口千代子
田上敬祐、田村 仁、寺岡和廣、中島花江、中野一久、中村智美、中村好郎
中山秀樹、長濱一弘、濱田泰之、林田久美子、平川恵子、藤高ちよ、牧尾幸美
丸山 隆、三浦 勲、三浦弘文、道永忠幸、宮崎留美子、宮本格尚、守田真里子

次 第

1 部会報告

(1) 食の安全安心・食育部会 (2) 歯科保健部会 (3) がん部会

2 議題

(1) 第2次健康くまもと21基本計画の進捗管理について
(2) 第3次健康くまもと21基本計画の進め方について

3 取組紹介

(1) 健康ポイント事業について
(2) 循環器疾患悪化防止対策モデル事業について
(3) 健康情報（PHR）をいつでも確認できる仕組みの導入について

議事概要

議題（1） 第2次熊本くまもと21基本計画の進捗状況について

承認：34名 不承認：0名

○議題についてのご意見

【丸山委員（(株)熊本地方卸売市場）】

新型コロナウイルスの感染拡大という想定できなかった事態もあり、成果指標の改善率が5割を切っているのは残念。今後の進捗を見守りたい。

<事務局（健康づくり推進課）>

健康くまもと21基本計画の進捗管理で記載していますように、成果指標をみると、長く続くコロナ禍の中で、運動やスポーツ習慣の減少、食生活の乱れ、飲酒量の増加、喫煙率の増加、肥満の増加、特定健診の数値悪化、ストレスを感じる市民の増加や自殺者の増加等の傾向が見られます。これは、感染拡大によるまん延防止等重点措置の適用等により、市民の方へ不要不急の外出等、一定の行動制限が要請されていることがその一因ではないかと考えられます。

しかし、実際は医療機関への通院、食料・医療品・生活必需品の買い出し、生活や健康の維持のために必要な屋外での運動や健診受診等は、不要不急ではなく行動制限の要請から除かれています。

現在国においても、がん検診等の受診は不要不急の外出にあたらないことを改めて啓発し、必要な受診を呼びかけるために「がんの早期発見のための受診勧奨」動画を公開しています。

引き続き検診や屋外での運動の必要性等の正しい情報を適切に伝え、市民の方の健康づくりに結び付けてまいります。

【下雅意委員（健康まちづくりを推進する東区の代表）】

初めての経験となる現在のコロナ禍の中での活動ということで、成果指標が悪化したのは、人と人との密接なコミュニケーションが制限されてきたために致し方ないと考えます。今後のデジタル化等への変更によるリカバリーに期待します。

【井手委員（熊本県看護協会）】

コロナ禍が影響して、成果指標が悪化しているのは残念です。ただ、各団体及び行政の方々もコロナ対策に様々な工夫をして取り組まれていると思いました。このコロナ禍がいつまで続くか不明な中でさらなる工夫が必要と考えます。

<事務局（健康づくり推進課）>

委員の皆様のご指摘のように、コロナ禍においては、これまで各団体や行政が行ってきた主に対面型の講演会やイベント開催を通じた啓発の機会が減少している一方、取組の中でご紹介している対面機会を減らしたWEB会議の開催や動画を作成してYouTubeで配信する取組が積極的に行われています。

今後は大勢の方が一堂に会する講演会やイベントの開催から、市民の方が安心していつでも参加できる動画視聴等のオンデマンド型の講演会、SNSを活用した健康づくりに関する啓発を広げていくことが重要であると考えています。

このため、今後も各団体の皆様と情報共有を図りながら、新たな形の啓発の取組を率先して行えるよう努めてまいります。

【中島委員（健康まちづくりを推進する西区の代表）】

学校の先生方は身体、心の健康と本当に毎日多くのことに対応していただいていることに感謝している。例えば、常駐SCで支援できないか。コロナ禍でとても大変と思う。

<事務局（教育委員会 総合支援課）>

新型コロナウイルスの流行も考慮しまして、本年度はSCの持ち時間を9,623時間から12,739時間に増加しました。SCは児童生徒や保護者のみならず教職員のカウンセリングやコンサルテーションも積極的に実施しております。今後もSCの持ち時間の増加については、学校にニーズを確認しながら、取り組んでまいります。

【中山委員（熊本大学大学院生命科学研究部歯科口腔外科学講座）】

熊本県歯科衛生士会が作成された乳幼児期の歯科健康教育動画は素晴らしいと思いました。

<事務局（健康づくり推進課）>

本市の子どものむし歯の罹患率は、政令市の中でワースト2に位置しており、動画の二次元コードを掲載したリーフレットやSNS等を活用し、様々な機会と媒体を通して啓発を強化してまいります。

【佐藤委員（熊本県歯科衛生士会）】

課題となっている歯周疾患の予防については、協会けんぽと県歯科医師会との連携事業である。生活支援プログラムに協力し、生活習慣の見直し・全身の健康づくりに寄与していきたい。

<事務局（健康づくり推進課）>

本市の歯周病検診事業においては、受診率向上対策や制度の対象年齢、自己負担金等の状況を調査し、検討してまいります。

議題（2） 第3次健康くまもと21基本計画の進め方について

承認：34名 不承認：0名

○議題についてのご意見

【守田委員（尚絅大学生活科学部栄養科学科）】

概ね賛成ですが、市民アンケートはこのスケジュールで、課題把握ができ、重点施策に反映できるのだろうか、少し疑問に思いました。

【下雅意委員（健康まちづくりを推進する東区の代表）】

コロナ禍が終息しない、新たな感染症の発生等を想定し、あわせて活動の基盤となる人と人とのコミュニケーションが制限されることも想定しての進め方としていただきたいと思います。

<事務局（健康づくり推進課）>

本市の健康増進計画である健康くまもと21推進計画は、健康増進法に基づき策定します。健康増進法では、市町村の作成する健康増進計画は、国の基本方針や県の健康増進計画を勘案して策定するよう規定されています。

お示したスケジュールのとおり令和4年度下旬から令和5年度上旬には国のプランが示されますので、これを受け、本市の次期計画を策定してまいります。また、市民アンケートについても並行して行いますが、そのスケジュールは4月から11月までとしており、最終的な市民アンケートの成果品等の納入は11月頃になりますが、審議会にかかる資料作成のため、7月中にはアンケート項目のデータ分析は終えている予定です。

また、計画策定にあたって開催する5月、8月、11月、2月の計4回の第3次健康くまもと21策定委員会で計画案についてご審議いただくこととしております。

5月は国のプランの内容と本市計画の整合性等による方針等の確認、8月以降はアンケート結果を勘案しながら市計画の成果指標等を設定した計画内容の審議に移っていくこととしており、審議内容は逐次庁内担当課と共有を図って参りたいと考えています。

予算措置が必要な施策も出てくるのが想定されますが、例年11月頃行っています新年度予算要求に向けて、事業の制度設計から予算要求まで十分間に合うものと考えているところです。

【丸山委員（株）熊本地方卸売市場】

成果指標の判定に市民アンケートの結果を反映させているものも少なくないことから、第3次計画に向けて検討される予定となっている「アンケート項目の検討」にあたっては、留意する必要があると感じます。

<事務局（健康づくり推進課）>

健康増進計画の策定、また計画の成果指標を測定するアンケート項目の設定に当たっては国の基本方針（プラン）と整合性を図ったものとしていくこととしております。また案の検討を行うにあたっては、健康くまもと21推進会議や各部会、また第3次健康くまもと21策定委員会の皆様のご意見を伺いながら進めてまいります。

○部会報告についてのご意見

【下雅意委員（健康まちづくりを推進する東区の代表）】

コロナ禍の中、各部会共に取組等にはご苦労されたと思いますが、現在のコロナ禍が終息しても、新たな感染症が発生すると言われておりますので、「新たな生活様式」に則した活動が必要となり、リモート化・オンライン化・分散化等の「新たな社会様式」での活動になるかと思っておりますので、それらを想定しておくのが良いかと思いました。

【宮崎委員（熊本市農業協同組合）】

食の安全安心・食育部会に関して、コロナ禍の現状に対してのご意見を伺えて良かったです。

【中村委員（熊本市私立幼稚園・認定こども園協会）】

HACCPを知っている市民の割合が20%と低いようですが、行政や施設がその意義を深く把握し実践してもらえれば食の安全につながっていくので継続をお願いします。

フッ化物洗口について市内小学校は、低学年は全校実施と聞いていましたが、11校の実施とあり、少ない理由を知りたいところです。令和3年度、第2さくら体育幼稚園がフッ化物洗口を実施しており令和4年6月の歯科検診で結果を確認する予定です。

<事務局（食品保健課・健康づくり推進課）>

ご指摘のとおり、食品関係事業者にはHACCPに沿った衛生管理に取り組んでいただく上で、市民の方の認知度を高めることは必要なことと考えており、出前講座や衛生講習会等の機会を通じて市民の方への啓発や情報発信を行ってまいります。

次にフッ化物洗口については、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から実施を見合わせる学校があり、令和3年度の全小学校実施は困難な状況です。令和4年度以降も、新型コロナウイルスの感染状況を注視しながら、教育委員会や関係機関等と連携を図り、取組を進めてまいります。

【井手委員（熊本県看護協会）】

P7【検証指標の変更について】の箇所についての質問です。HACCPは、2020年から1年間が猶予期間で、2021年6月からHACCP導入・運用が完全義務化になっておりますが、6月から現在までの取組みに施設数は把握できているのでしょうか。

<事務局（食品保健課）>

HACCPに沿った衛生管理の実施については、完全義務化前に、全ての食品関係事業者へ文書を送付して周知したところですが、今後は営業許可の申請時や営業施設の立入調査等の際に、取組み状況を確認し、導入していない事業者に対しては指導してまいります。

【中島委員（健康まちづくりを推進する西区の代表）】

今まで子育てサロン等で食育（離乳食）講話を行ってきたが「おかゆも自分で作れますよ！」の現状を知り驚いた。東区の大学ボランティア部から若い推進員が誕生したとのこと他の大学・専門学校にも対応していただきたい。

【澤村委員（熊本県栄養士会）】

熊本市の小学生の虫歯の罹患率が政令市で高く、他の政令市に比べ減少スピードが鈍いとの報告を耳にしました。更なる対策の必要性を感じました。

【工藤委員（熊本市薬剤師会）】

コロナ禍での栄養管理や生活リズムの変更による歯みがき習慣の低下が懸念されます。特に単身者が心配されます。各薬局で服薬指導を通しての生活習慣や環境への助言をしていきたいと思えます。

【谷口委員（熊本市地域包括支援センター連絡協議会）】

オミクロン株感染拡大のため、取組が難しいと思っています。

○取組紹介についてのご意見

【佐藤委員（熊本県歯科衛生士会）】

健康アプリの活用やPHR サービスについては、更なる活用の推進・周知を行ってきたい。

【小山委員（熊本市民生委員児童委員協議会）】

PHR サービスについて、マイナンバーカードの活用により様々な健康支援が可能だと思えますが、熊本市としての方向性、取組はいかがでしょうか。

<事務局（健康づくり推進課）>

PHR（パーソナルヘルスレコード）は、国民が、自身の保健医療情報をPCやスマートフォン等でマイナンバーカードを活用して、生涯にわたる健康データを閲覧・活用することを可能とするものです。

本市が行う事業は、市が検診結果等を個人へ提供するため、市が行う検診結果等を国の中間サーバーに副本登録するシステム改修を行うハード面の事業になります。

今後は民間のPHR 事業者が開発するアプリによりスマートフォン等で容易に検診結果等を確認できるためのソフト面の開発も進んでいくこととなっており、現在、国の方で安全安心にサービスを活用できるルール化の整備を進めています。この取組を通して市民の方が医師や医療専門職と健康情報を共有し、自身の健康増進等に活用できることが見込まれます。

【井手委員（熊本県看護協会）】

熊本健康アプリの使用がエリア拡大され、またスマートフォンを持っていない方も記録票で参加できるようになり良かったと思えます。令和4年度の新たな取組で登録者が更に増えることを期待します。

【中島委員（健康まちづくりを推進する西区の代表）】

「歩っとハートサポーター」お一人で不安な方や会話の機会が少ない方には心身ともに元気になれる様に思います。登録しなくてもご近所（地域）でできれば良いですね。

【中村委員（熊本市私立幼稚園・認定こども園協会）】

熊本市ホームページにウォーキングコースが写真付で紹介してありました。多くの人がこれらのコースを散策し、健康づくりに生かされるとよいと感じました。

【宮崎委員（熊本市農業協同組合）】

熊本健康ポイント事業は、大変良い事業だと思いますが、ポスターやチラシ配布では、魅力を伝えるのは難しいと思います。企業や事業所単位で登録するようになると、企業等にとっても社員の健康作りとしてプラスになると思います。

【下雅意委員（健康まちづくりを推進する東区の代表）】

熊本健康アプリの登録者が更に増加するような強化・充実施策に期待しております。

○その他ご意見

【守田委員（尚絅大学生活科学部栄養科学科）】

行政も各団体もいろいろな取組をしていることが分かりました。しかし、熊本地震や新型コロナウイルスの影響でしょうか、悪化しているものが多いことが大変気になります。その分析が必要なので、市民アンケートは8月までには終わるようにできるとよいと思います。

12月1日付け熊日新聞に出ていました「小学生の虫歯保有率44.6%で、政令市ワースト2」も、とても残念です。全国的に小学生の虫歯保有率は、減少傾向にある中、なぜこんなに高いのか疑問です。市では幼児期に問題があるとの分析ですので、もう少し強化していく必要があると思いました。

<事務局（健康づくり推進課）>

まずアンケートについてですが、「議題（2）第3次健康くまもと21基本計画の進め方について」でお答えしておりますように、市民アンケートの期間は4月から11月までとしていますが、実際には8月にアンケート結果を勘案しながら市計画の成果指標等を設定した計画内容の審議を行っていくこととしており、予定では7月中にはアンケート結果を把握することとしております。また、委員ご指摘のとおりアンケート結果は各取組の成果を図る指標であり、その後の計画策定にも影響するものでございますので、スピード感を持って実施してまいります。

本市においても、幼児、小学生ともに年々虫歯保有者は減少傾向にありますが、全国平均と比較すると多い状況です。本市の幼児の虫歯罹患率が高い要因として、仕上げ磨きがきちんと行われていない、間食が多い等の理由が考えられることから、妊婦歯科健診や幼児健診の場を活用した多職種連携による相談に加え、正しい仕上げ磨きの動画の二次元コードを母子健康手帳に掲載する等、広報の手法を工夫しながら、乳幼児に関わる家族等へ広く啓発を行ってまいります。

小学校においては高学年になるにつれ、塾や部活等で食事の時間が変則になり生活リズムが乱れ、また、定期歯科健診はもとより歯科検診後の受診ができない児童がおり高い状況になっているようです。

【小山委員（熊本市民生委員児童委員協議会）】

熊本市は政令市の中でも子どもの虫歯の割合が高い状況だと聞いています。虫歯予防の取り組みとして「フッ化物洗口」を九州内では積極的に導入している学校（長崎では推進補助金を出している）もあるようです。導入するにあたっては、保護者、子どもへの説明が必要とのことであり、コロナ禍のなか説明会のあり方も検討すべきかと考えます。

＜事務局（健康づくり推進課）

本市においても、県から各市町村（熊本市を除く）へのフッ化物推進補助事業がございます。また、本市のフッ化物洗口事業の保育所等および小学校での実施にあたっては、熊本市 8020 健康づくりの会や熊本市シルバー人材センターにフッ化洗口事業の準備と後片付けを中心に委託し、学校の負担軽減に必要な費用を予算化しております。

教職員、保護者、子どもへの説明会は、コロナ禍により対面説明が困難な場合はオンライン、二次元コードによる説明を実施しております。

【佐藤委員（熊本県歯科衛生士会）】

昨年、小学生の虫歯あり 44%、政令市ワースト 2 の新聞記事がありました。先日皆様に送付させていただきました。「子どものむし歯予防！4つのポイント」の動画、チラシは乳幼児期の歯・口腔の健康のための啓発資料になります。乳幼児の歯・口腔の健康は学童期や成人期、高齢期の歯・口腔の健康の出発点です。チラシ・動画を活用し、全身への健康につながる歯・口腔の健康づくりに寄与していきたいと思えます。

【藤高委員（熊本市小学校校長会）】

第2次健康くまもと 21 基本計画の取組状況が関係団体よりたくさん取組、コロナ感染拡大防止に関連した工夫した取組等が報告されています。次年度に向けてさらに取組を進められるよう学校としても頑張っていきたいと思えます。また、関係団体との連携もさらに深め健康づくりに取り組んでいきたいと思えます。

【中村委員（熊本市私立幼稚園・認定こども園協会）】

健康な市民の増加は熊本市の財産になるので健康くまもと 21 推進会議の事務局や各委員の方々のお知恵や努力が実を結んでいけばと願っております。

【三浦委員（健康まちづくりを推進する中央区の代表）】

意見ではなく取組ですが、託麻原校区では高齢者と小学4年生合わせて 240 名程で文通（ハッピーレタープロジェクト）が昨年末から始まりました。互いの思いやりの心が手紙を彩り、コロナ禍の中での素敵なエピソードになっています。

【中島委員（健康まちづくりを推進する西区の代表）】

特定健診の受診率が上がらないですね。春日校区では「子育てサロン」で健康に関することを伝えて、ご高齢者へは「いきいきサロン」「元気くらぶ」個別訪問等でチラシを配布するなど行ってきました。令和3年度より春日コミセンホームページが運用スタートしましたので、30～50歳代の方にも伝えることができればと思う。上手く活用したい。（校区広報誌やPTAにQRコードを紹介し、LINEでもお知らせした。）

【宮本委員（熊本市歯科医師会）】

コロナによって様々な事業計画が、中止、延期を余儀なくされています。フッ化物洗口事業は、学校が行わない格好の理由にならないように100%を目指して継続的なアプローチを期待します。子供の虫歯の状況が新聞報道されて関心も高まっているので何か積極的にアプローチして行きたいところです。対象が増える成人歯科健診にも期待します。

【澤村委員（熊本県栄養士会）】

私共職能団体としての役割を十分に発揮できぬまま、昨年度末より1年が経ってしまいました。まだまだ厳しい状況が続きますが、私共の知識、技術を市民の皆様の健康増進、予防の為の事業に努めてまいりたいと思います。

【谷口委員（熊本市地域包括支援センター連絡協議会）】

コロナ禍の中での、介護予防など一体的な情報発信の継続が必要だと痛感しています。